



お元気ですか!

志村 たかよし です

第676号 2014年1月19日

日本共産党中央区議団

中央区 築地 1-1-1
電話 3546-5563
FAX 3546-9570

計画通り行かず、泥沼へ すでに破たん！豊洲新市場計画



ゆりかもめからよく見える土壌汚染対策工事の様子。

建設費が407億円増の1035億円に

整備費用は2000億円以上？

豊洲新市場計画は、様々な問題を抱え「崖っぷち」に立たされています。

その一つが、建設工事入札の不調で、東京都は12月27日に再入札を公告しました。

開札予定日は2月13日、予定価格は、1回目の入札を約407億円（65%）上回る1035億円にしました。

しかし、公告したのは、青果棟と水産卸売場棟、仲卸売場棟の3施設の建設工事だけで、付帯施設は発注の対象から外しているため総事業費はさらに増大することが確実となっています。

都は、整備にかかる費用を築地市場跡地を売却してまかなおうとしています。これ以上、整備費用が増大するとまかないきれなくなる可能性が出てきます。

セネコン言いなりの工事費増？

工事途中でさらに跳ね上がる可能性も

都は、再入札を実施する際に、登録したJV（ジョイントベンチャー）の筆頭企業である鹿島、清水、大成から予定価格を聴取したと言います。

大手ゼネコンの関係者は「工期が短すぎる。間に合わせるには突貫工事が必要だが、その経費は含

整備費増大は市場会計を直撃

これまで用地買収と土壌汚染対策だけで約2500億円が投入されていますから、整備費用に2000億円かかれば4500億円にもなります。

築地市場跡地が売却されるまでは起債によって資金を調達しなければならず、売却が遅ればその間の金利負担が増えます。

天井知らずに増える整備費は市場会計を直撃するため、市場業者への影響は避けられません。

まれていない。今後、資材や人件費はさらに値上がりが予想されるので、採算が合わなくなる可能性が強い」と強気だそうです。

これは、工事の途中で建設費がさらに跳ね上がる可能性を示唆しているのではないのでしょうか。

ご承知のように、豊洲新市場予定地は、東京ガス工場跡地のため、ベンゼンやシアン化合物などの猛毒物質によって高濃度に汚染されています。

都は、今年3月末までの予定で大手ゼネコンと汚染対策工事を契約していますが、まだ終了していない状況です。

にもかかわらず、建設を急ぐ都は、12月24日に技術会議を開き「対策が完了した」ことを確認したとして「安全宣言」を出しました。

普通の建設工事であれば、土壌汚染がなくなつたことを確認するため、地下水の汚染を2年間にわたって測定・監視するモニタリングをしなければならぬのですが、それもせずに進めようとしているのです。

「食の安全」よりも「建設先にあるべき」の都の姿勢は許されません。築地市場は現在地で整備すべきです。

10回目を迎えた レインボーハウス明石「クリスマス会」



12月21日に、レインボーハウス明石の第10回「クリスマス会」が晴海マリナーズコートで盛大に開かれました。
10回目という区切りですので、「レインボーハウス明石」で行っていた頃の写真(下)も掲載しました。



「レインボーハウス明石」でのクリスマス会



レインボーハウス明石の1階ホールで開催されたクリスマス会の様子です=2008年12月